

2014年に文学部、人間社会学部を渋谷キャンパスに移転

実践女子大学学長 湯浅 茂雄氏

本誌 実践女子大学は二〇一二年で創立一二三年になりますね。

湯浅 本学は近代女子教育の先駆者であった下田歌子先生によって一八九九年に帝国婦人協会私立実践女学校、女子工芸学校として東京市麹町区元園町、現在の千代田区麹町に創立されました。実践女学校、女子工芸学校の両校はその後、一九〇三年に東京・渋谷に移転、一九〇八年には両校が合併して私立実践女学校となり、第二次世界大戦後の一九四九年に本学、翌年に短期大学が設立され、現在は学校法人実践女子学園のもとに中学校高等学校（中高一貫校）、短期大学、大学・大学院を展開しています。

また、一九六五年に東京・日野市にキャンパスを設置、同キャンパスに本学が文学部、生活科学部、人間社会学部の三学部・八学科と大学院・三研究科、短期大学は同市内の別キャンパスで日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科、食物栄養学科の四学科を擁しています。

本誌 創立者の下田先生は欧米への教育視察で女子教育の必要性を痛切に感じ、実践女学校などを設立し

たそうですが。

湯浅 下田先生は一八七二年、宮中に出仕、皇后(のちの昭憲皇太后)

にお仕えし、皇后にその歌才を愛でられ、歌子の名を賜りました。その後、下田先生は宮中を辞し結婚したものの、夫の早世によって短い結婚生活は幕を閉じますが、宮中で才女の誉れ高かった下田先生には教育者としての期待がかかり、一八八五年に当時新設された華族女学校の教授に迎えられ、翌年には学監に就任します。そしてその傍ら、二人の内親

王の教育掛かりの命を受け、先進諸国の女子教育の視察のために欧米留学を命じられます。英国を中心に二年間にわたって欧州諸国を巡った下田先生は各階級の学校教育、家庭教育をつぶさに見学、英国で皇女も一

般市民と同じ教育をパブリックスクール(私学)で受けていることに大きな感銘を受け、国力の基は一般子女の教育にかかっているという結論を得ました。帰国した下田先生は華族女学校を組織替えた学習院女子部の教授に就任し、後には学部長

を兼ねることになります。一八九八年に帝国婦人協会を組織し、その会長に就任します。帝国婦人協会は、

これまで上流婦人に偏っていた婦人団体の組織を広く一般に開放した全国的組織で、「新時代に生きる女性の教養とそれに裏付けられた実践力を身につけ、生活と社会の改善をはかる」ことを目的にしており、その一環として実践女学校などを創立、自らの教育にかける理念を「実践」という校名に冠することによって表明したのです。

本誌 「高い志を持って社会貢献する女性を育成する」という教育理念のもと、社会の変化に対応した教育を展開していますね。

湯浅 下田先生は女性の社会的地位がほとんど問題とされなかった時代に、いち早く女性の地位向上を目指し、その基礎が女子教育にあることを見抜き、「品格高雅にして自立自営し得る女性の育成」を建学の精神に掲げました。教育により女性の品格を高め、さらに実践的な学業を授けることで自立の基礎とし、社会に貢献できる女性を育成しようとしたのです。また、下田先生の言葉の一つに「女性の清らかな徳性と豊かな情操をもって社会の弊を正せ」というものがあります。より公正な社会を築くとともに世界平和を実現



湯浅茂雄（ゆあさ・しげお）氏

1952年10月東京都生まれ。1975年・上智大学文学部卒業。1982年・上智大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程満期修了。1977年～1980年・東京都立工芸高等学校教諭。1979年～1982年・国立国語研究所国語辞典編集準備室調査員。1982年～1998年・ノートルダム清心女子大学国語国文学部国文学科講師、教授。1998年・実践女子大学文学部国文学科教授。2005年・同文学部長。2007年・実践女子大学・短期大学学長に就任。2011年・実践女子学園副理事長。

するためには、これまで以上に女性が社会で活躍し発言力を高めなければなりません。二一世紀を迎え、ダイバーシティ推進社会になった今、正に「社会を変えるのは女性である。そのためには女性が変わらなくてはならない」と唱え、女子教育に情熱を傾け実践してきた下田先生の精神が本堂に必要とされる時代となりました。「女性が社会を変える、世界を変える」時代の到来とも言えるでしょう。このため、本学の共通科目に下田精神の学習を導入し、全学生が学んでいます。また、論文の書き方や情報検索の方法などアカデミック

クスキルの修得を目的とした科目群「実践スタンダード」の創設や全国に先駆けて導入した全学必修のキャリア教育など、常に社会の要請に応え、教育内容の見直しを行なっています。

本誌 人間社会学部に現代社会学科を設置しましたが、

湯浅 人間社会学部では人間同士の関わりや企業におけるビジネス活動、メディアを活用した社会を学ぶ人間社会学科に加え、多様化する現代社会で起きている共生社会問題やダイバーシティに対する研究、企業内における人事管理やリーダーシッ

プを学ぶ現代社会学科を昨年四月に開設しました。同学部の入試は各学科に分かれず、入学時は学部にも所属人間社会学学習のために必要な基礎科目を学び、二年次からそれぞれの学科に所属して専門科目を学ぶもので、カリキュラムの充実とともに、より専門性を高め、社会で活躍できる女性の育成を図っています。

本誌 二〇一四年四月に大学と短期大学の一部が渋谷キャンパスに移転しますね。

湯浅 渋谷キャンパスは六本木通り沿いに面した実践女子学園中学校高等学校の体育館だった場所を利用

して新設され、日野キャンパスから文学部・人間社会学部の二学部と短期大学の日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科の二学科が移転する予定です。校舎は一七階建てで、都心型キャンパスとして周辺施設や人的ネットワークを最大限に活用した教育展開を行います。また、広い敷地を有する日野キャンパスでは実践実習に力を入れるため、生活科学部の施設・設備を整備、拡充します。

本誌 女子大で学ぶことの意義、メリットはどのようなものですか。

湯浅 共学なら男子学生が担当、あるいは手助けする仕事まで女子大の場合にはすべて女子が行いますので、自立自営の精神はかなり鍛えられると思います。また、女子大学は規模が大きくなり、学生ひとり一人に気を配ったきめ細かい教育ができることにも、社会的要請をいち早く授業やカリキュラムなどに反映することも可能です。さらに、入学して卒業するまでの四年間だけにとどまらず、結婚して家庭に入り、子育てを終えたあとの社会復帰など、生涯にわたって女性を支援をしていけるのも女子大ならではのです。